



繰り返し訓練して来たるべき日に備える



9月4日に当院にて稲沢市消防本部との合同勉強会を開催、『トリアージSTART法』の訓練を行いました。負傷者側とトリアージをする側に役割を設定して訓練を繰り返しました。負傷者については、稲沢市消防本部が過去の震災で実際に発症した負傷者をモデルに設定。具体的には、ガラス片が足に刺さった負傷者が歩けるか、呼吸をしているか、呼吸状態、脈拍数、意識レベルなどスピードを意識しながら判断し、トリアージ訓練を行いました。

参加した職員から様々な意見があがりました。

研修医

「トリアージの言葉は聞いていたが、実践すると判断の難しさやスピード、的確な判断が求められることを実感しました。貴重な体験ができた。」「小さなお子さんの異常な呼吸の判断が難しいため知りたい。」

日本DMAT隊員 伊藤医師（外科）

「有事に備えることが大切で、トリアージは異常事態時に医師のみならず事務、看護師でも行える指標である。アンテナを張り、負傷者の状態変化によってトリアージの色を変えていき、『医療資源を救える命に集中』させることが目的である。また、当院は『災害拠点病院』でありその使命として、被災した時に地域のリーダーとなり医療を提供するために総合力を上げていく必要がある。そのために研修会や訓練など継続的に実施していく必要がある。」

山口院長

「医療職だけでなく『全職種が一体となって異常時に備える』ためにはどうしたらいいか、消防や他施設などから教えていただき、取り組んでいきたい。」と今後の課題について述べていました。

きゅう きゅう 9月9日 救急

9月9日は何の日かご存知ですか？ 厚生労働省を中心に9月9日を『救急の日』として救急医療に関する普及啓発の目的で全国各地でさまざまなイベントなどが開催されています。今月号は、当院の救急に関連した内容をお届けします。

救急の日



年々、暑くなる夏……。皆さんは、夏バテ大丈夫でしたか？ 話は変わりますが、昨年の病院まつりで子供たちと一緒に当院の2階中庭に『ガーデンアート』として色とりどりの植物を植えました。ハイビスカスは、暑い夏でも元気にキレイな花を咲かせていました。ハイビスカスの花言葉は『新しい恋』だそうです。季節も変わるので人恋しくなる時期にピッタリ！？ですかね。

沖縄気分が味わえます。



稲沢市民病院 × 救急の日

稲沢市民病院は二次救急医療施設です。一次救急医療施設は、比較的症状の軽い患者さんをみる施設で、二次救急医療施設とは、入院や手術が必要な患者さんをみる病院です。三次救急医療施設は、高度な医療ができる病院です。たとえば頭部外傷や脳卒中など高度の治療が24時間提供できる病院です。三次救急医療施設は稲沢市内にはないため、患者さんの状態に応じて近隣の一宮市立市民病院や総合大雄会病院と連携してお願いする場合があります。地域でつなぐ命のリレー、当院として市民のみなさんにできることを考えています。

救急外来 × カンファレンス

当院では毎朝8時20分より『救急外来カンファレンス』を行っています。主に救急車で搬送された患者さん、救急外来を受診して入院された患者さんを中心に情報共有をします。カンファレンスでは、担当医師だけでなく他科の医師も一緒に一人の患者さんを総合的にみていき、多職種で意見交換をすることで患者さんにとってより適切な医療の選択ができるような方向性を検討していきます。また当院で受け入れている研修医はカンファレンスを行うことで、直接指導を受けた医師だけでなく他の医師からもフィードバックを受けることができる環境となっています。研修医が対応に悩んだ症例や疑問に思ったことを指導医と供覧し、助言を受けたり、今まで担当したことがない症例検討を通じてディスカッションすることで自己研鑽の場になっています。



救急外来カンファレンスの様子



救急外来 × HCUスタッフ

HCUで勤務している看護師は、救急外来も担当しています。24時間切れ目なく重症対応・緊急対応を展開しています。HCUは全診療科の患者さんを対象に高度な医療が求められます。救急外来から入院された方、一般病棟で病状が急変し、継続した観察が必要な方、術後管理などの全身の集中的な治療・看護を必要とする患者さんなどを受け入れています。また、HCUでも朝に多職種カンファレンスを実施しスタッフ間で情報共有を行っています。救急外来は、あらゆる年齢層の患者さんを対象とし、軽症者から重症者まで受け入れています。短い時間で患者さんの状況や病状・ニーズを把握し、安心して安全な治療が受けられる支援や、療養生活の支援をしています。治療が円滑に進み、早く回復できる医療を提供しています。患者さんやご家族の思いを知り、チームで意思決定を支援していきます。求められていることが提供でき、癒やすことができるよう心がけています。



患者さんを救急搬送する稲沢市消防本部



2024年国府宮はだか祭の負傷者受け入れの様子

救急外来 × 稲沢市消防本部

当院では稲沢市消防本部との連携を密にしています。救急現場だけではなく、定期的な検討会や研修会を行い、毎回テーマを定めた講演や、実際の搬入事例を元にした数例の症例検討を通して、当該地域の救急隊と当院が一体となって救急体制のあり方について模索し、救急隊との連携を深めることに努めています。消防との話し合いでも、お互いに「顔の見える関係」を構築していくことは重要であると相互に認識しており、患者情報のやり取りや検討会や研修会などを通じて、救急隊員と接する時間を増やすことで、コミュニケーションが密になり、医療の質の向上も図っています。

救急看護認定看護師

丹村看護師が大切にしていること

救急外来、HCUのスタッフである丹村看護師は、救急看護認定看護師という資格を習得しており、いかなる状況下でも患者さんに応じて迅速で的確な救命技術や救急看護技術を提供できるよう、実践・教育・相談を行っています。全職員に対して質の高いBLS（一次救命処置）ができるよう、院内でライフサポートチームを結成し活動しています。院内トリアージ（軽症患者さんに紛れた緊急度の高い患者さんを見つけ、早く治療が開始されるようにする）を行うトリアージ看護師の能力の向上を目指し医師を交えての事後検証会や勉強会を実施しています。

また、当院は地域の『国府宮はだか祭』で負傷した方の受け入れ病院でもあるためトリアージを行ったり、災害拠点病院のDMATメンバーの一員として被災地支援にも向かいます。「一人でも多くの方が急変時の対応を知ることによって救える命がある。」を信念に掲げ、院内研修だけでなく、院内のライフサポートチームと共に『出前講座』や『病院まつり』など地域の皆さんと一緒に急変時の対応、心肺蘇生術、AEDの使用方を学ぶ講演会を実施したり、稲沢市消防本部との合同勉強会の企画・運営、救急医療の啓発など活躍は多岐にわたります。



救急看護認定看護師
丹村看護師

職員対象の勉強会の様子

出前講座

みんなで楽しく学ぼう！



病院から地域へ、『世代を越えて、地域で学ぶ。』学びのお手伝い。

あなたの勇気と行動力が命を救う！
『胸骨圧迫とAEDの使い方』を看護師、
ライフサポートチームが講師で行います。
詳しくは、当院ホームページをご覧ください。

